

令和3年度自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立郡上特別支援学校 学校番号 112

自己評価

<p>(1) 校訓                  あかるく (仲間と助け合い、ともに明るく元気に生きる力)                  なかよく (人、地域や社会、自然と強調できる豊かな心)                  たくましく (夢や自信をもち、たくましく生き抜く力)</p> <p>(2) 学校教育目標                  自己の可能性を最大限に伸ばし、夢や希望の実現に向けて生き生きと学校生活を送りながら、「自己肯定感と自信」、「豊かな心」を育み、たくましく生き抜くことができる児童生徒を育成する。                  ① 仲間と助け合い、何事にも明るく元気に取り組める児童生徒                  ② 豊かな人間関係を築き、進んで地域や社会の活動に参加できる児童生徒                  ③ 夢や希望の実現に向け、たくましく生き抜くことができる児童生徒</p>
---

領域	重点項目	具体的取組及び成果と課題	評価
学校経営	◎児童生徒一人一人の教育的ニーズやキャリア形成に基づいた実践力を育む教育の推進 ◎ふるさと教育や地域資源の活用と連動した学校づくりの推進 ◎児童生徒の身を守るための教育の推進と危機管理体制の構築	○児童生徒の教育的ニーズを明確にして、教員間で情報を共有して個に応じた指導ができた。 ○見学や体験をとおして、身近な自然や生き物、施設や産業に関心をもち、ふるさと岐阜や郡上の魅力を体験できる活動を行った。 ○児童生徒が自分で自分の身を守るができるように、命を守る訓練、健康教育、情報モラル教育、性に関する指導を実施した。	A
教科指導	◎児童生徒の発達段階や学習状況を踏まえ、教育的ニーズに応じた指導のねらいと評価の観点を明確にし、個に応じたきめ細かな指導を行う。	○個々のニーズを踏まえて、それぞれの児童生徒の実態に応じた目標設定と指導及び評価ができた。	A
キャリア教育	◎キャリアパスポートを活用し、学校生活全般において教師が児童生徒と対話的に関わりながら、学んだことを振り返るとともに自己肯定感や自信を育む。	○児童生徒が自己を振り返ることで成長を実感し自信を付けるとともに、課題に向き合うことができた。 ●キャリアパスポートの意義や活用方法について、学校と家庭が連携して有効活用する。	B
ふるさと教育	◎郡上市や岐阜県の魅力を理解し、地域の人と互いに認め合いながら地域に貢献できる児童生徒を育成する。	○ふるさと魅力体験事業による県内の施設や企業の見学及び体験をとおして、身近な自然や生き物、施設や産業に関心をもち、地域の魅力に気付くことができた。 ○岐阜県の産業の学習と施設見学、職場見学を関連付けた学習に取り組み、産業に対する理解や働くことへのイメージが高まった。 ○米作り、焼き芋等の地域の方との交流、体験活動により、自然に親しみ、地域の方に自ら関わる姿を引き出した。 ●校外学習だけでなく、県内の身近な資源(人、自然、施設等)を活用して、様々な教科・領域でふるさとに関わる学習を充実する。	A

総合的な学習（探究）の時間	◎自分の生活、進路、地域に関する学習等に継続して取り組み、ICT機器を効果的に活用できる力や、よりよく問題を解決する力や態度を育成する。	○郡上や岐阜をテーマとした学習に取り組み、自ら課題を発見し、課題解決に向けて主体的に取り組むことができた。 ○タブレット端末を活用し、課題解決のための調べ学習や学習成果の発表のためのプレゼンテーションの作成などが、生徒自身でできるようになった。	B
自立活動	◎障がいについての自己理解を深め、自分の力を最大限に発揮しようとする主体的な活動を推進する。	○教育的ニーズや児童生徒一人一人の目指す姿を踏まえた自立活動の目標設定を行った。 ○教育活動全般をとおして指導できるように、各教科等と関連付けて個別の指導計画や指導と評価の年間計画に反映できた。	A
道徳教育	◎基本的な生活習慣や社会生活のルールやマナーを身に付け、他者とともにより良く生きるための道徳的判断や行動ができる力を育む。	○小学部段階から、身だしなみ、挨拶等の基本的な生活習慣の育成、集団生活のルールやマナーを守って行動できる力を育むことができた。 ○生徒会等を中心に人権に関する取組を実施し、自己肯定感を高めることで、思いやりや他者理解の心を育むことができた。	A
特別活動	◎児童生徒会活動、委員会活動等をとおして、仲間とともに協力して活動を展開する中で、よりよい学校生活を築き、自主的、実践的な態度を育てる。	○委員会活動や生徒会活動では、仲間と同じ目的をもって考え、話し合い、協働活動を実施する中で自主性や仲間意識を育むことができた。	A
ICT活用推進	◎ICT活用推進計画の下、ICTを活用した効果的な授業実践を推進する。 ・地域や外部機関と連携したオンライン授業を実施し、学びの拡大を目指す。 ・教材のデジタル化を進め、1人1台端末を活用した個別最適な学びを充実させる。 ・臨時休業日等にオンラインによる学習支援を行い、学びの機会を保障する。	○障がい特性に合わせた視覚的な教材提示、調べ学習、写真や動画の撮影と提示、Metamoji等のアプリを活用した学習支援など、ICTを効果的に活用したことにより、学習を深めることができた。 ○オンラインにより、地域の学校や外部機関と結んで交流や講演を実施し、コロナ禍においても学べる方法を実現した。 ○臨時休業日等にオンラインによる学習支援を行い、学びの機会を保障した。 ○●教材のデジタル化を進め、教材のデータベース化を図ることができた。今後、より多くの教材データの蓄積と活用を図る。	B
研修	◎学校が抱える課題や職員個々の課題を明確にし、課題解決のための主体的な研修、研究、授業公開を推進する。	○職員個々の課題に沿って、主体的に研究推進し、児童生徒に還元することができた。 ○職員間で一人一授業公開を実施し、より効果的な授業や指導方法について知見を深めた。	A
健康教育	◎自らの健康、心身の成長発達及び性に関して適切に理解し、行動できる力を育む。 ◎生涯にわたって健全な食生活を実現できる知識と習慣を、家庭と連携して身に付ける。 ◎体育、健康に関する指導をとおして、基礎体力の向上を目指し、運動に親しむ基礎を培う。 ・感染症について正しく理解し、予防に必要な知識と習慣を身に付ける。	○中学部、高等部で健康教育を定期的に行い、心身の健康について理解を深めることができた。 ○バランスの良い食事や旬の食材について考える授業を行い、食に関する知識を身に付けることができた。 ○オリンピックやパラリンピックをきっかけに様々なスポーツを知り、体験することで運動への興味関心を広げることができた。 ○日常生活の中でマスクの着用、手洗い、手指消毒が定着した。また、感染状況に応じた予防対策を施し、学校行事や校外学習等を実施することができた。	A

生徒指導	<p>◎いじめを含む諸問題に対する未然防止、早期発見のための組織的な対応を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ SNSやネット上のトラブルに対して適切に対応できるよう、情報機器の適切な取り扱い、ルールやマナーの指導を徹底する。</li> </ul> <p>◎児童生徒が実際の状況に対応できる実践的な防災教育を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有事の際に危機管理マニュアル、避難所開設マニュアルに基づいた効果的な実践が可能となるよう職員、保護者、地域住民の連携を図る。</li> </ul>	<p>○いじめの定義や対応については、職員会議や部会で全職員に周知を図り、全職員で組織して対応した。</p> <p>○各教師並びに外部講師による情報モラル学習を行い、規範意識を高めることができた。また、情報モラルアンケートの実施により、実態を把握し個に応じた的確な指導を行うことができた。</p> <p>○学年やグループの実態に即した防災の学習を、生活単元学習に位置付けて実践したことで、防災意識の向上を図ることができた。</p> <p>○危機管理マニュアルに基づき、計画的に各種命を守る訓練を実施し、様々な災害に対する行動を意識付けることができた。</p> <p>●地域と連携を図った命を守る訓練や、防災教育を実施する。</p>	B
進路指導	<p>◎「地域でたくましく働き続ける人」「地域の担い手となる人材」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夢や自信をもち主体的に進路を選択する力を育む。</li> <li>・ 社会のニーズに対応した働く力、変化する社会を生き抜く力を育む。</li> <li>・ 小学部段階から実践力を育む進路学習、キャリア教育に取り組む。</li> </ul>	<p>○キャリアパスポートを活用し、小学部段階からキャリア教育に取り組むことができた。小学部から高等部まで一貫して活用できる評価表を用いたことで系統性のある指導を行うことができた。</p> <p>○高等部では地域の協力を得て、現場実習や企業内作業学習、校内作業実習を実施し、働く力を育成することができた。</p> <p>○中学部では、地域の公共施設や事業所からの注文を受け納品に行くことで、働く喜びにつなげることができた。</p> <p>○支援機関との連携を密に図り卒業生の追指導を行い、学校から支援機関へスムーズな移行を図ることができた。</p> <p>●個別のニーズに応じた進路情報を提供する。</p>	A
地域連携	<p>◎地域と学校とが協働して行う行事やGujoSmileサポーターズの活用を推進し、地域に開かれた学校づくりを目指す。</p> <p>◎学校間交流や居住地校交流を通じて、地域の同年代の児童生徒との豊かな人間関係を築く。</p>	<p>○地域の方の協力を得て、米作り体験学習や焼き芋会を実施し、児童生徒が生き生きと活動することができた。</p> <p>○オンラインや手紙、DVDの交換等の方法で、学校間及び居住地校交流、共同学習を実施できた。実践を繰り返す中で、双方向のやりとりの充実が図られた。</p> <p>●コロナの流行が続き、地域との交流やGujoSmileサポーターズの活用が十分にできなかった。様々な方からのアイデアをもとに次年度の交流を立案し実施する。</p>	B

A：達成できた      B：概ね達成できた      C：あまり達成できなかった      D：ほとんど達成できなかった

学校関係者評価（令和4年2月16日学校評価実施）

意見・要望・評価等

- ・ 郡上特別支援学校は、開校以来近隣のキーパーソンとなる個人が学校と地域を結び付けてきた。今後、新校舎整備を見据え、学校運営協議会の役割として、個人からネットワークにしていくことが求められる。
- ・ 学校運営協議会がキーとなって、郡上の子供を郡上で育てる学校づくりを進めることが地域の発展や街づくりにつながる。新校舎整備と併せ、この学校運営協議会が地域に果たす役割は大きい。共生社会の実現に向けて、来年度当初から、学校及び委員が動き出せる準備をお願いしたい。